

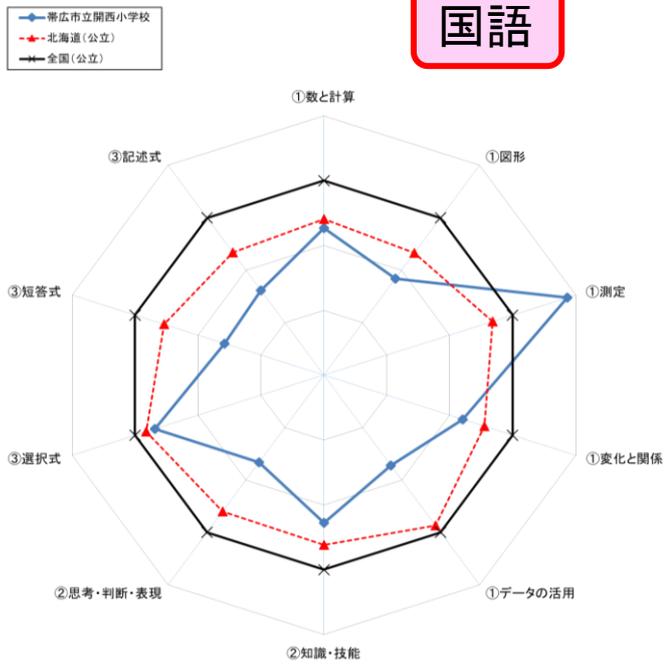
令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について（5月27日実施）

令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。なお、本調査により測定できるのは子どもたちが身に付けるべき学力の一部であり、教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえながらも、これまでの指導との関連を図りつつ今後の指導に生かしていきたいと考えています。

※全国学力・学習状況調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。」「そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」ことを目的とし、平成19年度より行われています。

国語

算数



国語の平均正答率を領域別にみると、「言葉の特徴や使い方」「話すこと・聞くこと」領域に比べ、「読むこと」「書くこと」領域の課題が大きくなりました。また、選択式の問題の平均正答率が高かったのに比べ、決められた字数や条件にそって要約するなど「記述式」の問題への苦手さが大きな課題となりました。

算数の平均正答率は、「測定」領域の平均正答率が全国、全道の平均正答率を大きく上回りました。「数と計算」「図形」領域はほぼ全道平均と同様でしたが、「データの活用」領域においては大きな課題となりました。また、国語と同様に根拠や筋道にそって記述する問題が課題となりました。

児童質問紙より

「朝食を毎日食べている」「将来の夢や希望を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「国語の学習は楽しい」「算数の勉強は大切だ」などの項目は、全国・全道の平均より高い結果でした。「自分にはよいところがあると思う」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」「家で自分で計画を立てて勉強している」などは、全国・全道の平均より低い結果となりました。

これまでと今後のとりくみ

- 正答率の低かった問題については、解き直しや関連した問題への取組を進め、確実な定着につなげています。
- 全学年を通じて校内研究との関連を図るなど組織的な授業改善につながるような取組を進めてきました。
- 国語・算数ともに決められた字数や条件を満たして文章を要約したり、計算式の意味を筋道たてて説明したりするなどの問題に苦手さがみられます。考えたことを順序立てて記録したり、自分の意見をまとめたり、お互いの考えを共有しながら課題解決を図ることを大切にし、学習内容がしっかりと定着できるよう授業改善に努めていきます。
- 家庭学習の習慣化や充実など、家庭と連携した取組を図っていますが、更に充実させていきます。
- 読書活動への啓発や日々のニュースへの関心を高めるなど、社会性を育む基礎となる指導や活動を日常的に取り入れ

